

学校運営計画(4月)				総合評価(3月)	
学校運営方針	1 「生きる力」の育成に向けて、県教育委員会が示す「鍛ほめ福岡メソッド」を指導方法の基本として、学力・体力・精神力の面で、困難な課題に挑戦させ、自らの力で解決に挑ませ、努力の過程を認める指導を実践する。 2 授業力の向上、家庭学習時間の増加と充実に向けて組織的に取り組み、「確かな学力」を養う。 3 将来を見通した進路目標の設定に向けて、進路情報を積極的に提供し、具体的進路目標を設定させる。 4 明るく元気で、自他を大切に、規範意識の高い、心身ともに健全な生徒を育成する。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
【成果】部活動の加入率が増加し、学習との両立を図る生徒が増えている。全体的に学習時間の増加及び学力の向上が見られ、国公立大学の合格者数が増加した。部活動については、県総体での得点率上昇が第9位となり、各部活動の活性において向上している。 【課題】生徒・保護者の期待に応え進路実績の向上をさらに目指すため、教職員の指導力の向上を図る必要がある。今後、全職員が学校運営方針及び目標を意識して教育活動を実行することが必要がある。	「確かな学力」の養成	公開授業週間及び授業アンケートを有効に活用して授業力の向上に努めるとともに、家庭学習時間増加と充実に向けて具体的な対策を講じる。 大学入試の改革の流れを踏まえて、教員のアクティブ・ラーニングの実践力を高め、生徒の高い思考力・判断力・表現力を養う。そのための、組織的研修を行なう。			
	キャリア教育の充実	総学の時間を活用した「キャリア教育」を通して職業観を育成し、自らのキャリア(将来像)を具体的に考えさせる。 より高い進路目標を設定させ、それを実現しようとする意欲を高める。			
	「豊かな人間性」及び「体力」の育成	基本的な生活習慣の確立及び挨拶等のマナーの指導を徹底するとともに、人権教育の徹底により「いじめ撲滅」を実現する。 学校行事及び部活動を充実させ、課題や困難を乗り越える力、柔軟に物事に対応する力を育成する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務	学力の伸長及び充実	学習時間調査の内容改善し、生徒の実態を反映した家庭学習状況を把握することで、確かな学力の育成を推進する。 考査問題や評価方法の改善を図り、成績上位者の増加と不振者の減少を図る。 前年に継続し出席皆勤者を増やすとともに、3年生の年度後半の出席率向上に努める。			
	迅速で正確な諸業務の処理及び効率的な組織体制の推進	成績処理システムのさらなる整備及び指導要録等、諸表簿の迅速で正確な処理を推進する。 各担当チーフがリーダーシップを取ることで、基本的なスキルの共有や事跡の継承を推進する。 課会等を通じて諸業務における創意工夫を図り、効率化を推進する。			
	図書教育の推進	生徒の読書力や興味・関心に応じられるように蔵書を充実させ、貸し出し冊数の増加に繋げる。 多様化する進路や入試に対応するため、調べ学習・小論文作成等に必要な資料を充実させる。 選書委員会を定期的に開催し、選書状況・購入計画・資料の活用状況の確認に努める。			
生徒指導	マナー・モラルの向上	「挨拶」「言葉遣い」「礼儀作法」を日頃から正しく習慣化させ、社会に出て通用するマナーを身につけさせる。 いじめやネット上の問題行動等に対応できる組織的な生徒指導体制の確立。 課題解決に向け、学校・家庭・関係機関の連携・協働の推進。			
	生徒会の活性化	各種委員会活動より「委員会だより」を発行する。 行事等の充実を図るため、体育大会の見学など他校との交流を行う。			
	教育相談をはじめとする生徒支援の充実	教育相談を実施し、スクールカウンセラーや訪問相談員、担任、保護者間の連携を図り、支援体制を充実させる。 ソーシャルスキルトレーニング(1・2年対象)、メンタルヘルス講習会(3年対象)を実施し、生徒のよりよい人間関係づくりやストレスをうまく解消できるヒントを与える機会とする。			
	環境美化の徹底	美化コンクールを実施し、清掃指導を充実させ、校内外の環境美化に努める。 自主的にゴミを拾ったり、備品や公共物を大切にしている態度を養い、生徒の公共心を養う。			
	保健委員会、整美委員会の活性化	各委員会での広報、啓発活動、研究発表などを推進し、活動を充実させる。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
進路指導	キャリア教育の見直しと、新しい内容の検討推進	各種委員会を充実させキャリア教育を根本的に見直しその取組について検討を推進させる。		
		高大連携や看護体験等を通して、自らの将来像をより具体的に考えさせ、その実現に向けての取組を進める。		
		進路説明会や各講演会等を通して自らの課題を見つけ、それを解決していこうとする行動力を身に付けさせる。		
	多様化する社会において自らの進路実現に向け、具体的な計画と行動ができる生徒の育成	より深い進路学習を通して進路選択をさせるとともに、困難を克服できるように細かな指導を行う。		
		効果的な受験指導を目指すことを目標に、更なる課外授業、対外模試の有効活用を行う。		
		進路通信や学級通信を充実させ、保護者に対して進路情報の提供を図り効果的な進路指導を目指す。		
積極的、効果的な進路情報の提供及び校務における情報機器活用の推進	教員及び生徒による進路指導室の積極的利用を促進し、様々な進路情報を適切に把握できる環境を整える。			
	教務関係の重要情報のセキュリティを強化するとともに、校務における効果的な情報機器活用を推進する。			
研修	授業力・指導力の向上	2回の公開授業週間を利用し、研究授業・協議会を充実させるとともに生徒の主体的な活動を促す授業に取り組む。		
		授業アンケートの内容を充実させ、集約結果をもとに授業改善に役立てる。		
		校内研修を充実させるとともに、校外研修の積極的な参加を勧める。		
人権教育の推進およびいじめ撲滅	人権教育の推進といじめ防止基本方針の職員への周知徹底を図りいじめ撲滅に努める。			
総務・広報	行事の円滑な実施	関係各部との連絡調整を密に行い、前年度の反省を活かした具体性のある実施計画を作成する。 行事ごとに職員への連絡・調整を密に行っていく。		
	開かれた学校づくりを視野に入れた広報活動の推進	学校案内や体験入学等で、西高生の声を反映させた効果的な学校PRを行う。		
	学校施設・設備の効果的な利用の推進	各分掌・教科間の調整を行い、学校施設・設備の効果的な利用を検討し、実施していく。		
第1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行と時間厳守の徹底を指導する。 部活動の奨励やクラス目標・学年の歌の導入により、規範意識と帰属意識の育成を図り、出席率の向上を目指す。		
	学習習慣の定着	授業規律、予習復習を徹底させ、授業を大切にす姿勢を定着させる。 「学習の記録」を有効に利用した指導により、家庭学習の定着と充実を図る。		
	進路意識の高揚	総学・進路説明会・個人面談等を有効に利用し、進路に対する意識を高める。 効果的な習熟度編成により、生徒の能力を最大限発揮させ、進路や学習の目標設定に繋げる。		
第2学年	自己管理能力、自律心、自立心の育成	挨拶の励行と時間厳守の徹底及び周囲に配慮した言動(校内・校外)がとれるように指導する。 学年連絡黒板等を活用し、学校生活に見通しを持たせて主体的・協働的に行動ができるようにする。		
	進路意識の高揚、学力の向上、家庭学習の質の向上	朝自習の10分間を有効活用するとともに、学習の記録の確認を通して個別指導を随時行い、家庭学習の質の向上を図る。 進路研究を通して具体的な進路目標を設定させるとともに、校外模試の結果と希望進路を比較させながら進路指導を行う。		
	自治意識の涵養	様々な学校行事において個々の生徒に中堅学年としての自覚と責任を持たせ、リーダーシップを育成するとともに自治意識の涵養を図る。 修学旅行委員会を中心に生徒の力で修学旅行を成功させ、3学年への意識付けを図る。		
第3学年	希望進路の実現	授業と課外授業を中心に進路実現に向けての学習を組み立てさせ、家庭学習時間の確保と、内容の充実を図らせる。 進路目標を明確に設定させ、その実現に向けた意欲と学力を養成する。		
	社会に貢献できる人材の育成	選挙権を有する社会人として、適切に正しく判断し、責任ある行動が取れ、周囲に配慮して行動できる生徒を育成する。 ・学校生活を充実感をもって送ることができ、自己コントロールのできる生徒を育成する。		
事務室	財産会計事務の適正な執行	・条例規則の改正に適切に対応する。また、職員間でのチェック体制を図る。		
	学校運営方針に沿った予算の有効活用	・教員とのコミュニケーションを図るにより、情報収集に努め予算の効率的な執行に活用する。		
	財産の適正な管理	・定期的に校内巡回を行なうことにより不良箇所早期発見・修繕に努める。また、体育館改修工事施工に伴い、工程会議において連絡調整を的確に行なうと同時に、内容を職員へ周知することで安全確保に努める。		